

令和3年度 第1回仙台市都市計画協議会 議事概要

日 時	令和3年6月2日(水) 14:30～15:45
会 場	東京エレクトロンホール宮城 601大会議室
議 題	次期仙台市都市計画マスタープラン地域別構想について 【都市計画マスタープラン地域別構想 骨子案 等】
配付資料	資 料 1 次期仙台市都市計画マスタープラン地域別構想について 別 紙 1 仙台市都市計画マスタープラン地域別構想の策定スケジュール (予定)

【主な意見】

資料1 次期仙台市都市計画マスタープラン地域別構想について

(地域別構想全体について)

- ・誰に来てほしいのか、どのような賑わいなのか、どういった都市機能なのか具体性がほしい。例えば泉中央地区では教育と健康をテーマとする、長町地区では健康と産業をテーマとするなどを設定しないと、個性のある街や、地区間の連携の取り方が見えてこない。ただし、地域別構想の中でどの程度表現するのは難しいところもある。
- ・各地区の現状や問題点を踏まえつつ、地元の「ここはこのようにしたい」などの声を聞きながら、その方向性をサポートし、包括するような地域別構想を作成すべき。泉中央地区だからこそこできる、長町地区だからこそこできることを地元と一緒に考えていくべき。
- ・今後実施する各地区のまちづくり団体等へのヒアリング結果は、都市計画協議会にも報告してほしい。

(都心地区について)

- ・今後の都市づくりのポイントと、都市づくりの基本方針（案）にずれを感じる。例えば今後の都市づくりのポイントに記載の市役所本庁舎の建て替えや東北学院大学の五橋キャンパス移転を踏まえ、都市づくりの基本方針（案）に経済交流だけでなく行政機能や学校施設についても言及することなどが考えられる。
- ・都市づくりの基本方針（案）の既存建築物の改修・更新について、耐震化を契機とあるが、大規模・中小規模の建替えや、既存建築物を利活用するリノベーションなど、どういった手法で多様な空間をどのようにつくっていくのかといった観点を都市計画マスタープランとして記載すべき。
- ・都心地区は、実態として商業・業務の空間だけではなく、居住等の生活空間としての側面も持っている。特に大町や立町などの公園や買い物等が行われる生活空間については、郊外の住宅地とは違った位置付けで記載する必要があるのではないか。

(泉中央地区について)

- ・ 泉区役所の建て替えが大きなポイントになるので、そちらの事業内容とも整合性を図るべき。
- ・ 地域別構想の計画期間の中で、地区内の課題をどのように解決していくというイメージを持って、どの程度のレベルまで実現されるのかを示すべき。
- ・ 対象区域（案）に示される「駅前ゾーン」は、場所の名前を示しているだけなので、求める機能やどういう駅前にしていくのか中身の部分を示す名称にした方が良い。

(長町地区について)

- ・ 都市づくりの目標像（案）の、「新旧の市街地の融合」や「連携」は重要なポイントであり、ソフトだけでなくハードでどう支えるかも含め、今後検討する必要がある。
- ・ 長町地区の対象区域（案）について、国道4号仙台バイパスの立体交差化や浸水対策事業の実施が予定される郡山地区を含むような形で、範囲を広げることを検討すべきではないか。
- ・ 都市づくりの基本方針（案）について、商業・業務機能の集積という表現があった方が良いのではないか。
- ・ 新市街地の発展とともに旧市街地に対しても、既存施設の再構築など賑わいを取り戻すための策のようなものが示されると良い。
- ・ 商業中心ゾーンと商業・業務・居住ゾーンに分かれて示されているが、具体的にどのようなものを想定してゾーン分けをするか整理する必要がある。